

中小企業動向 トピックス

中小企業の業況は2期ぶりにマイナス、先行きは慎重な見方

第194回「中小企業動向調査」結果概要

〔2007年4～6月期実績、同年7～9月期および10～12月期見通し〕

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2007年6月に第194回中小企業動向調査を実施しました（調査対象12,821社、有効回答企業数6,323社、回答率49.3%）。

中小企業の景況感を表す業況判断D.I.は、2期ぶりにマイナスになりました。先行きについてはマイナスが続いており、慎重な見方となっています。また、売上げD.I.は、引き続きプラスを維持していますが、2期連続で前期に比べてプラス幅が縮小しました。

一方で、従業員D.I.は、プラスを維持しており底堅い推移となっています。また、設備投資実施企業割合は30%台の高い水準が続いています。

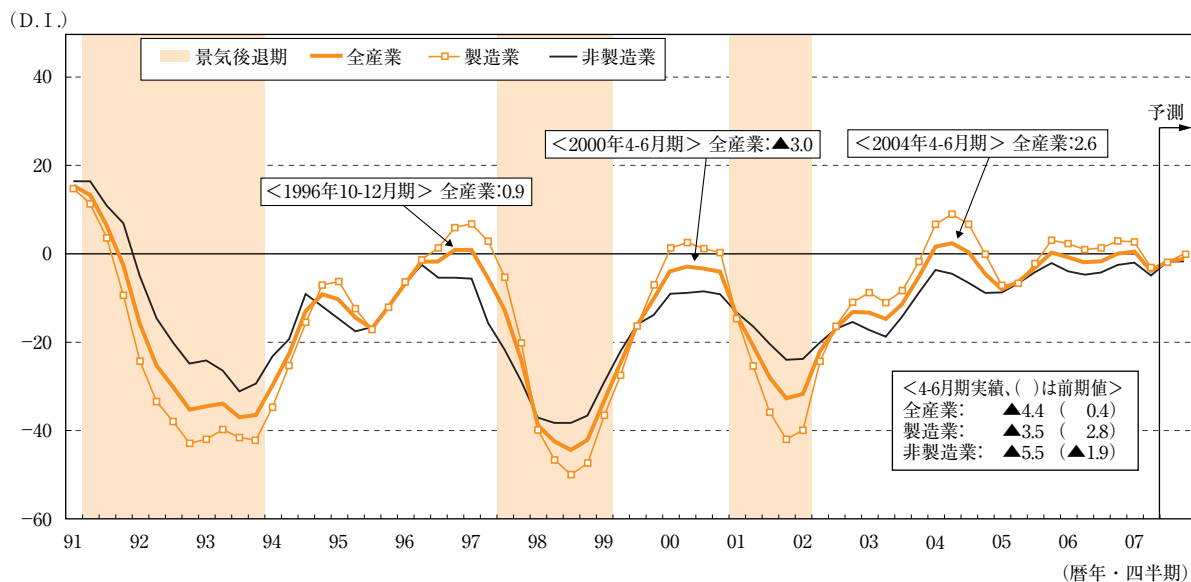
業況判断D.I.は、2期ぶりにマイナス

中小企業の2007年4～6月期実績の業況判断D.I.（全産業）は、▲4.4と前期実績を4.8ポイント下回り、2期ぶりにマイナスとなりました。

産業別にみますと、製造業では前期実績から6.3ポイント悪化し、▲3.5とマイナスになり、非製造業では前期実績から3.6ポイントマイナス幅が拡大して▲5.5となっています。製造業のマイナスは2005年7～9月期以来7期ぶりのことです。

先行きについては、全産業で1期先が▲2.0となっており、引き続き慎重な見方となっています（図表1）。

（図表1）業況判断D.I.の推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

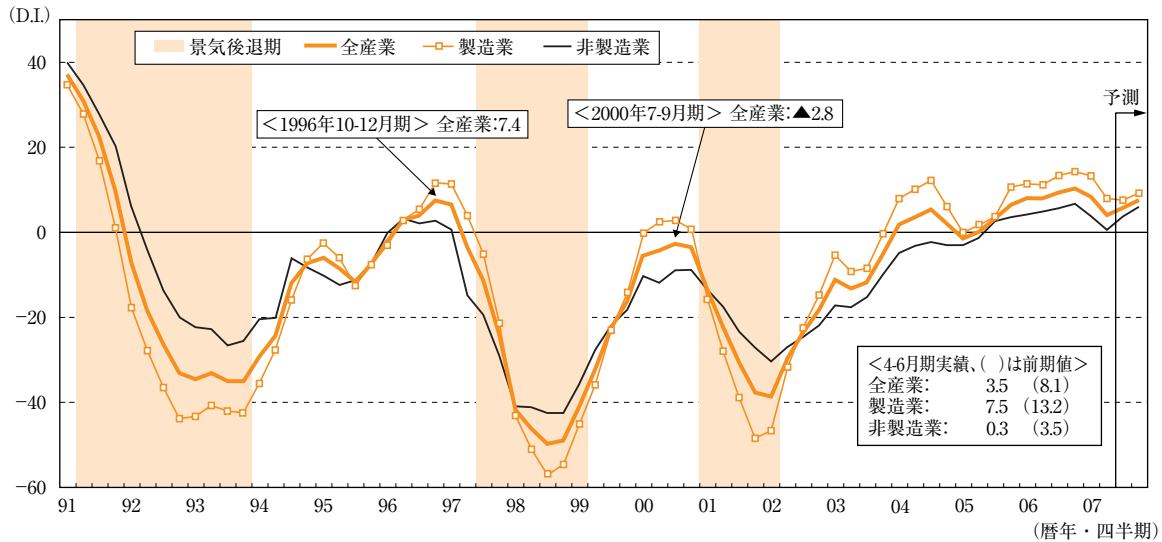


売上げD.I.は2期連続でプラス幅が縮小

2007年4～6月期実績の売上げD.I.（全産業）は3.5となりました。引き続きプラスを維持しているものの、前期実績を4.6ポイント下回る結果となり、2期連続でプラス幅が縮小しています。製造業では非鉄金属、鉄鋼などが高水準のプラスを維持しているものの、電子部品・デバイス、プラスチック製品でプラスからマイナスに転じています。非製造業では、倉庫業でマイナスからプラスとなった一方、建設業・飲食宿泊業はプラスからマイナスとなり、小売業ではマイナス幅が拡大しています。

先行きは、製造業で横ばい、非製造業ではやや改善する見込みです（図表2）。

（図表2）売上げD.I.の推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



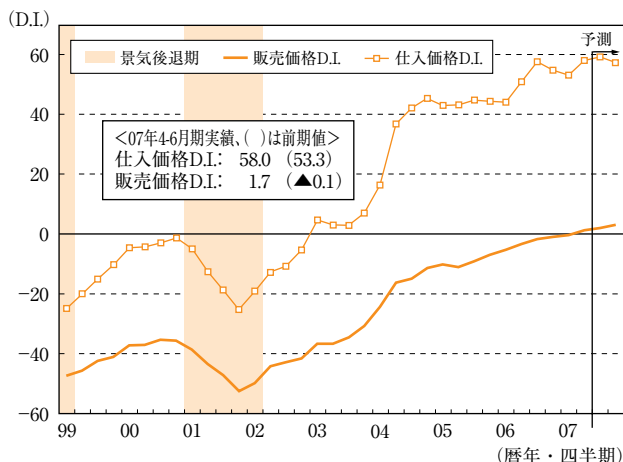
販売価格D.I.、仕入価格D.I.、ともに上昇。

販売価格D.I.（全産業）は、8期連続で改善し、プラスとなりました。また、仕入価格D.I.は、プラス幅が拡大し、高い水準での推移が続いています。

先行きについては、販売価格D.I.はプラスを維持、仕入価格D.I.は高い水準が続く見込みです（図表3）。

販売価格D.I.を業種別に見ますと、製造業ではマイナスに転じています。精密機械でマイナスからプラスとなり、鉄鋼、非鉄金属ではプラス幅が拡大し高いプラスを維持している一方、繊維・繊維製品ではプラスからマイナスとなり、電子部品・デバイスではマイナス幅が大幅に拡大しています。

（図表3）価格D.I.（全産業）の推移
（「上昇」－「低下」企業割合、前年同期比、原数値）



非製造業ではプラスに転じ、小売業、飲食宿泊業、情報通信業ではマイナスからプラスとなったものの、水運業ではプラス幅が縮小しています。

仕入価格D.I.を業種別に見ますと、全ての業種で高い水準となっており、その中でも非鉄金属、金属製品、鉄鋼などで特に高いプラスが続いています。また、化学工業、一般機械、小売業などでプラス幅が拡大しました。

純益率D.I.は3期ぶりにマイナス幅が拡大

純益率D.I.は、3期ぶりにマイナス幅が拡大し、▲11.2となりました。

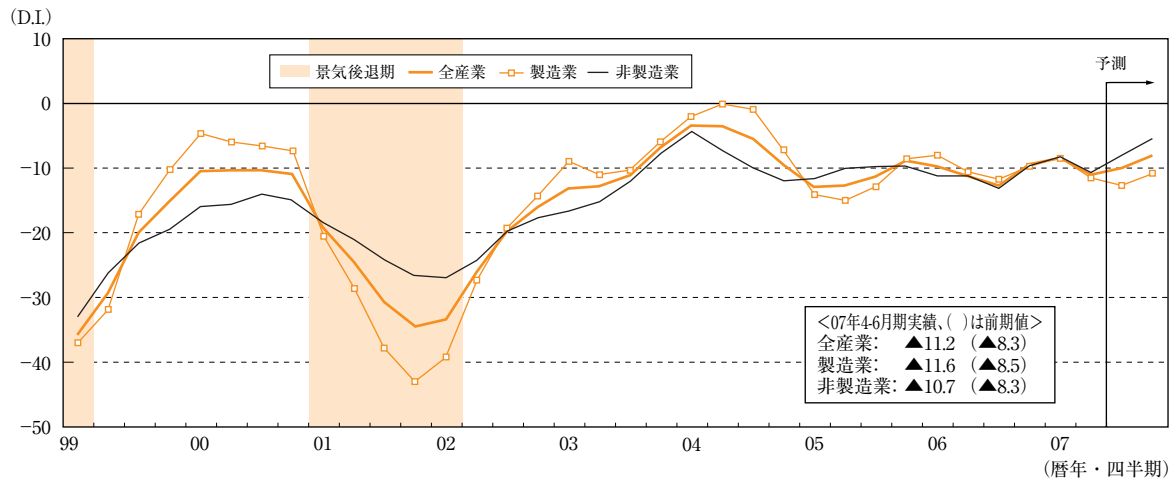
業種別に見ますと、製造業、非製造業ともに3期ぶりにマイナス幅が拡大しています（図表4）。

製造業では、鉄鋼、非鉄金属、精密機械でプラスを維持した一方、輸送用機械はマイナスに転じ、化学工業、電子部品・デバイスなどではマイナス幅が拡大しました。

非製造業では小売業、建設業などでマイナス幅が拡大し、飲食宿泊業ではプラスからマイナスとなっています。一方、不動産業ではマイナスからプラスとなり、水運業ではプラスを維持しています。

先行きについては、製造業で横ばい、非製造業では緩やかながら改善を見込んでいます。

（図表4）純益率D.I.の推移（「上昇」－「低下」企業割合、前年同期比、季節調整値）

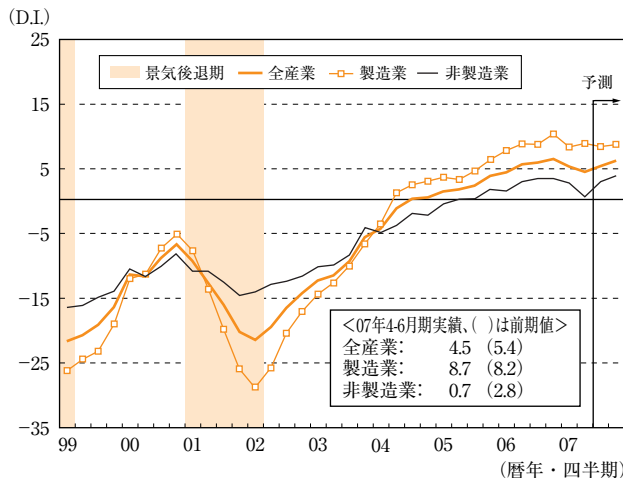


中小企業の雇用は底堅い動き、設備投資実施企業割合は高水準を維持

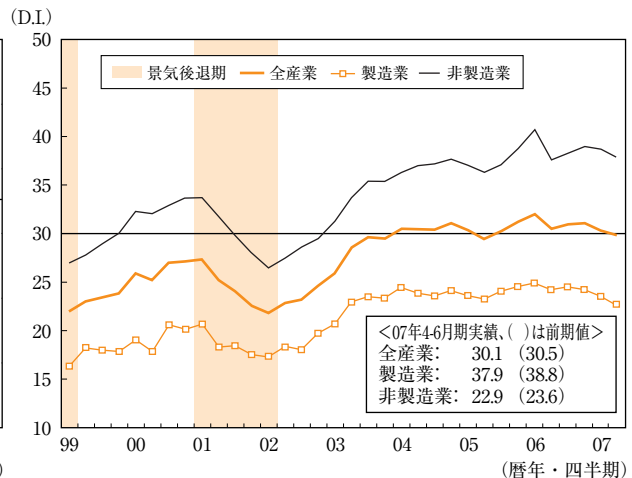
従業員D.I.（全産業）は、プラス幅がやや縮小したものの、11期連続でプラスとなりました。製造業、非製造業ともにプラスを維持しており、中小企業の雇用マインドは底堅い動きが続いています（図表5）。

また、設備投資実施企業割合（全産業）は、やや低下したものの、8期連続で30%を上回っており、企業の設備投資マインドは比較的強い状況が続いています（図表6）。

（図表5）従業員D.I.の推移
（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



（図表6）設備投資実施企業割合の推移
（実施企業割合、%、季節調整値）

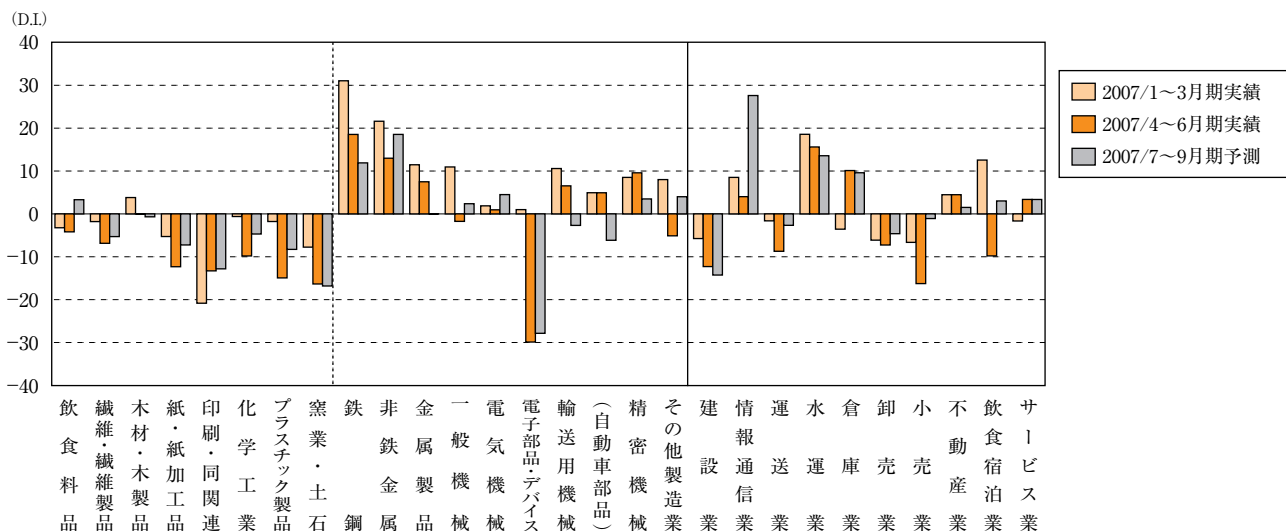


好調業種にも業況感に陰り

業況判断D.I.を業種別にみますと、製造業では、鉄鋼、非鉄金属などでプラスを維持しているものの、在庫調整局面が続く電子部品・デバイスではプラスから大幅なマイナスとなり、プラスチック製品、化学工業などではマイナス幅が大きく拡大しています。非製造業では、水運業が好調を維持し、倉庫業でマイナスからプラスとなっています。一方、飲食宿泊業はプラスからマイナスとなり、卸売業、小売業などで引き続きマイナスとなっています。

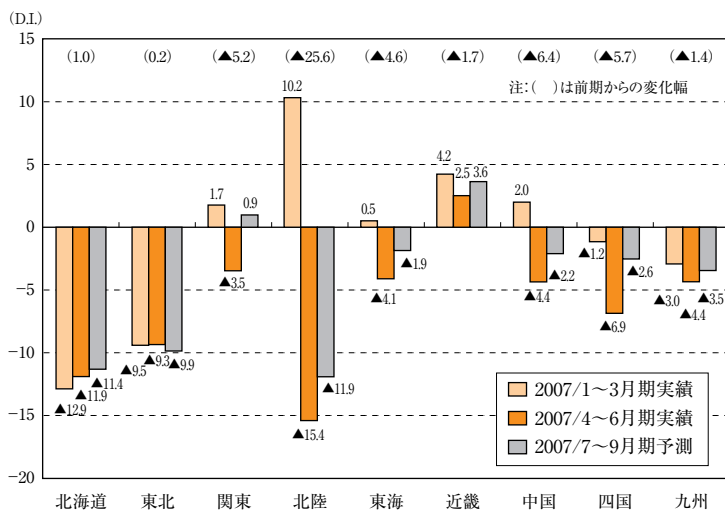
先行きについてみますと、製造業では、非鉄金属、精密機械ではプラスが続く見込みとなっています。一方、印刷・同関連、窯業・土石、電子部品・デバイスではマイナスが続く見込みです。非製造業では、情報通信業、水運業、倉庫業でプラスが続く見込み、飲食宿泊業ではプラスに転じる見込みとなっています。一方、建設業、卸売業、小売業ではマイナスが続く見込みです（図表7）。

（図表7）業種別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



地域別には大方の地域でマイナスへ

（図表8）地域別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



業況判断D.I.を地域別にみますと、三大都市圏では、近畿でプラスを維持したものの、関東、東海でマイナスとなりました。

また、北陸でプラスから大幅なマイナスとなり、中国でもプラスからマイナスとなっています。北陸では、地震の影響もあり、飲食宿泊業、卸売業、小売業などで景況感が悪化し、マイナスへの寄与が大きくなっています。

先行きについては、横ばいなし、若干の改善を見込んでいます（図表8）。

（楠本 敏博）

「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：中小企業金融公庫 総合研究所 ホームページ <http://www.jasme.go.jp/>